事例No.	3000
公表年度	R5
団体の属性	町村
団体名	岡山県英田郡西粟倉村

事例区分	地域活性化

タグ	・移住定住 ・地域運営組織 ・公共施設活用

事例種類	地域資源の活用

事例内容・タイトル

森づくりからはじまる脱炭素な村づくり

出典

令和5年度調査研究：先進事例調査研究事業

〇森づくりからはじまる脱炭素な村づくり

・取組団体：岡山県英田郡西粟倉村

・取組内容：持続可能な「村まるごと循環型経済社会」の実現

地域資源に付加価値を付け、経済を循環させることを目指し、森林の保全管理から施工、間伐材の商品化、活用できない林地残材のバイオマスエネルギーとしての活用等により、持続可能な森林経営を行うとともに、村内外に情報を発信し、村に関わる人々のネットワークづくりの構築

・推進体制：担当者１名（森林管理を民間事業者に委託）

・事業費用：百年の森林事業（間伐事業）に係る費用については、村が全額負担。

森林所有者から預かっている山林は全て事業の対象であり、発生した収益については村と所有者で分配。

施業費用は、村の一般財源と国や県の補助金を活用している。

（間伐収益に分配金や森林環境譲与税、Ｊクレジットの販売収益を充当）

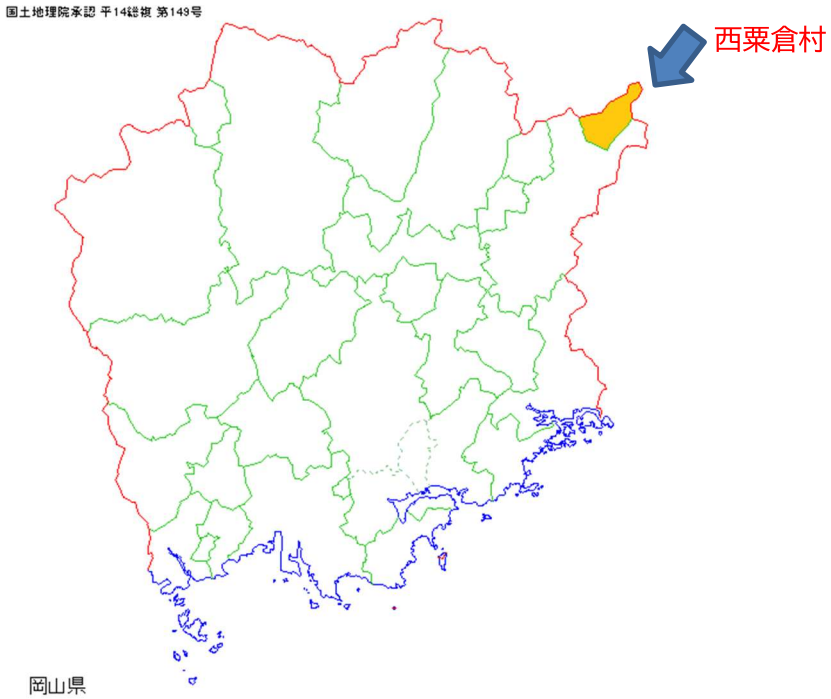
１．岡山県英田郡西粟倉村の概要

人口：1,356 人（令和５年６月 30 日時点）

職員数（一般行政部門）：26 人（令和４年４月１日時点）

総面積：57.03 ㎢

図表１　西粟倉村の位置図



出所：（一財）地方自治研究機構にて作成

２．取組の背景・目的・内容

（１）　取組の背景・目的

①　背景

西粟倉村は、森林面積が９割を超え、林業の村として栄えてきた。1950～1960 年代頃の全国的に進められた広葉樹林伐採跡地への針葉樹植栽を行う「拡大造林期」には、西粟倉村では、将来を担う子や孫のためにという想いで苗木の植栽が積極的に実施された。

しかし、1964 年（昭和 39 年）の木材輸入の自由化に伴い、海外から安価な輸入材が大量に流入したことで、1980 年代以降、国産材の需要や価格が徐々に低下した。このような林業の不況から、村の財政もひっ迫し、過疎化が進んでいた。

そのような中、平成の大合併が進む中、2004 年（平成 16 年）、住民アンケートで合併反対が 58%になったことで、村は合併しなかった。どのように村を存続させるか、村の職員が議論を重ねた結果、村の大きな資源である森林を切り口に村づくりを行うことに決めた。

当時の村長より、「約 50 年生にまで育った森林の管理を諦めず、あと 50 年がんばろう。そして美しい百年の森林に囲まれた上質な田舎を目指していこう」といった村民への呼びかけを行い、心と心をつなぎ価値を生み出していく「心産業」というコンセプトで産業を創り、仕事を生み出していく方向性が定められた。

②　目的

2008 年（平成 20 年）より「心産業」を興し、上質な田舎づくりを実現していくために、森林の再生に資源を集中させるという村の方針を定めた、村づくりの根幹となるビジョン「百年の森林構想」が策定され、2009 年（平成 21 年）４月から「百年の森林事業」が本格的に開始された。

この事業では、地域資源に付加価値を付け、経済を循環させることを目指し、森林の保全管理から施工、間伐材の商品化、活用できない林地残材のバイオマスエネルギーとしての活用等により、持続可能な森林経営を行うとともに、村内外に情報を発信し、村に関わる人々のネットワークづくりの構築を図っている。また、その工程において、「百年の森林事業」の理念に共感し、移住・起業を行った若者たちによるローカルベンチャー（地方でのベンチャー的起業）の力を採用し、行政、林業事業者、村民が一体となった地域づくりに取り組んでいる。

50 年生にまで育った森林の管理を諦めず、適切に管理された美しい森林に囲まれた地域をつくろうとする「百年の森林構想」をビジョンに掲げ、森林づくりの川上から川下までの経済活動をなるべく村内で循環させ、かつ災害のない健全な村土を保全することを目指している。

（２）　取組の内容

①　百年の森林事業

村有林約 1270ha と併せて、民有林約 3000ha を目標（令和４年度末 1579ha）に、森林所有者と協定を結び、村が森林の保全管理に取り組む。

②　森の学校事業

廃校になった影石小学校を拠点に、百年の森林事業で搬出される間伐材を利用した商品開発・販売等を株式会社西粟倉・森の学校が担い、持続的に森林整備を行うことができる環境をつくり、森林保全につなげる。また、森林を通じた西粟倉村のファンづくりを行う。

③　２０５０“生きるを楽しむ”むらまるごと脱炭素化先行地域づくり事業

2022 年（令和４年）４月に脱炭素先行地域に選定された。民間企業や金融機関とタッグを組んだ事業であり、公共施設や村営住宅等を対象に、太陽光発電等の再生可能エネルギー発電設備を導入していくほか、林地残材を利用した木質バイオマス発電・熱供給を始め、小水力発電や太陽光発電等も含めたさまざまな再生可能エネルギーの取組を推進することで、中山間地域における脱炭素モデル地域の創造を目指している。

図表２　木質バイオマス発電設備



出所：全国町村会

「岡山県西粟倉村／「生きるを楽しむ」上質な田舎を目指して―森づくりからはじまる脱炭素な村づくり―」

３．成果・課題

（１）　成果

①　新たな企業の設立

『百年の森林構想』の特長の一つが、ビジョンとプロジェクトが一体となっていることである。掲げられたビジョンを具現化したようなプロジェクトが行われているため、『百年の森林構想』と西粟倉村の魅力が、外部の人々にも伝わりやすかった。本構想の宣言後、新しいチャレンジをしたいと考える若者が、次々と西粟倉村へＩターンでやってくるようになった。また、村内で新しい企業が設立されるようにもなった。

新たに立ち上がった企業の例として挙げられるのが、主に国産材の加工流通事業を営む「西粟倉・森の学校」、家具や暮らしの道具を手がける「ようび」である。いずれの企業も構想を宣言した翌年である 2009 年（平成 20 年）に、西粟倉村の資源である森林を活用した事業を興している。

図表３　「西粟倉・森の学校」の製材所の様子



出所：FOREST JOURNAL

「《百年の森林構想とは》林業を主軸に地域再生・自立を実現した村、西粟倉の取り組み」

②　西粟倉村の新たな付加価値

『百年の森林構想』を宣言したのち、行政が主体となり、森林の経営管理を進めてきた。しかし、それだけでは、やがて森林や西粟倉村の価値が頭打ちになってしまうため、森林や西粟倉村に新たな価値を持たせられる方々に来村してもらう必要があった。

「西粟倉・森の学校」や「ようび」は、森林や村に新たな価値をもたらした好例だが、こうした企業がさらに村内で誕生するよう、2015 年頃から現在にいたるまで、交付金制度などを活用した仕組みづくりを策定するなど、起業を支援する多様な取組を行ってきた。

「ローカルベンチャースクール」事業では、起業を目指す３年の間に地域おこし協力隊制度を活用でき、人件費や活動費の支援を受けることができる。その結果、木材業者のほかにバイオマス事業、温泉事業、ジビエの生産・販売、服飾のデザインから生産・販売など様々なサービスを提供する企業が設立された。現在は、50 社以上の企業が村内で誕生した。

消費者のニーズを把握する方々が村で起業し、都市部に向けて数々の商品やサービスを展開した結果、西粟倉村では雇用が生まれ、百年の森林事業開始から総売上高が約１億円から約 11 億円に増加したほか、村内の林業関係者が 100 名以上となった。これにより西粟倉村は、さらに持続可能になっている。

③　脱炭素化への取り組み

脱炭素先行地域としての取り組みでは、林地残材を利用した木質バイオマス発電において、温泉施設に導入しているバイオマス事業の薪ボイラーを活用することで、経済効果として燃料費にして合計で約 100 万円の削減ができている。また、300 万円以上の地域原木の購入に加え、雇用創出につながっていることから、削減費以上の効果を生んでいる。

小水力発電においては、再生可能エネルギーである水力を利用し、化石燃料を使用しないため、低炭素化が図られる。そして、得られた収益の一部を活用し、太陽光発電やエコキュートの導入を推進している。

（２）　課題

①　管理対象の森林の増加

現在、山林所有者の約４割が既に村外者となっており、所有者不明の山林が一部取り残されている。その解決策として、森林信託という商品を開発し、都市部に住んでいる方向けに展開しているが、まだ民有林の半分程度は「百年の森林事業」として管理できていない状況である。

今後、管理していくためには、少しでも多くの人が山林を村に預けたり、売買や寄付などを行ってもらうシステムを構築していく必要がある。

②　所有者の理解促進

事業化後の運用段階で当初想定外の問題もあり、柔軟な事業スキームの見直しが必要となっている。森林の 10 年間の一括管理について、所有者の理解がまだまだ不足しており、面積拡大のための説明が一層必要となっている。所有者の事業に対する理解促進のため、最初に「新しい森林づくり発見ツアー」という形で現場に足を運んでもらったという。また、山林所有者に少しでも山のことを知ってもらうため、年に１度、実績報告会を各地区の集会場で開催するなど、所有者の理解を得られるように働きかけを行っている。

また、間伐材の利用方法が拡大しているため、間伐施業による安定的な木材搬出が必要であり、今後は、百年の森林構想を基に、さらに環境対策、低炭素社会の構築などを進める。

【参考】

・全国町村会「生きるを楽しむ」上質な田舎を目指して
http://www.zck.or.jp/site/forum/25220.html#section4

・総務省　施策事例　産業振興関連施策　百年の森林構想
https://www.soumu.go.jp/main_content/000215378.pdf
・国土交通省　多様な担い手と実現する「百年の森林」構想
https://www.mlit.go.jp/common/001275940.pdf
・FOREST JOURNAL　林業を主軸に地域再生・自立を実現した村、西粟倉の取り組み
https://forest-journal.jp/local-trend/38961/